

REPORT

除菌洗淨剤 ジョキンメイト

◆ 試験各種

洗淨評価試験
殺菌効力試験
含有量試験
毒性試験
生分解度試験

特徴・原料

「ジョキンメイト」は、環境によりやさしい原料を使用し、安心してご使用いただける除菌型洗淨剤です。

ジョキンメイト組成成分

炭酸塩・過炭酸塩・グルコン酸塩・有機キレート剤・
植物性消臭カプセル・天然脂肪酸

洗浄力試験

◆ 洗浄力の評価基準として使用される JIS K 3370 を用いた洗浄試験

分析試験成績書

2002年(平成14年)06月12日

依頼者 株式会社 フィールドサイエンス

検体名 ジョウリキ

日本食品分析センター

東京本部 〒111-0065 東京都荒川区元代々木町52番1号
 大阪支所 〒544-0051 大阪府大阪市豊津町3番1号
 名古屋支所 〒460-0012 名古屋市中区大須4丁目9番13号
 九州支所 〒812-0034 福岡県博多区下呉服町1番12号
 多摩研究所 〒206-0025 東京都多摩市永山6丁目11番10号

2002年(平成14年)06月30日当センターに提出された上記検体について分析試験した結果は次のとおりです。

分析試験結果

分析試験項目	結果	検出限界	注	分析方法
台所用合成洗剤 洗浄力	指標洗剤と同等以上(評価点の平均値X+1.0)		1 2	

注1. JIS K 3370:1994によった。
 注2. 依頼者指定の方法で検体を溶解し、標準使用濃度(1%/VX水溶液)で試験した。

評価結果

組合せ		判定者 1	判定者 2	判定者 3
指標洗剤	供試洗剤			
B ₁	A ₁	+2	+2	+2
B ₂	A ₁	+2	+2	+2
B ₃	A ₁	+2	+2	+2
B ₁	A ₂	+2	+2	+2
B ₂	A ₂	+2	+2	+2
B ₃	A ₂	+2	+2	+2
B ₁	A ₃	+2	+2	+2
B ₂	A ₃	+2	+2	+2
B ₃	A ₃	+2	+2	+2

B₁, B₂, B₃: 指標洗剤によって繰返し実験を行なったそれぞれのモデル汚れ
 A₁, A₂, A₃: 供試洗剤によって繰返し実験を行なったそれぞれのモデル汚れ

本成績書を他に掲載するときは当センターの承認を受けて下さい。

日本食品分析センター

評価区分

明らかに濃い場合(明らかに劣る場合)	-2
やや濃い場合(やや劣る場合)	-1
ほとんど差がない場合	0
やや薄い場合(やや勝る場合)	+1
明らかに薄い場合(明らかに勝る場合)	+2

評価結果

組合せ		判定者 1	判定者 2	判定者 3
指標洗剤	供試洗剤			
B ₁	A ₁	+2	+2	+2
B ₂	A ₁	+2	+2	+2
B ₃	A ₁	+2	+2	+2
B ₁	A ₂	+2	+2	+2
B ₂	A ₂	+2	+2	+2
B ₃	A ₂	+2	+2	+2
B ₁	A ₃	+2	+2	+2
B ₂	A ₃	+2	+2	+2
B ₃	A ₃	+2	+2	+2

B₁, B₂, B₃: 指標洗剤によって繰返し実験を行なったそれぞれのモデル汚れ

A₁, A₂, A₃: 供試洗剤によって繰返し実験を行なったそれぞれのモデル汚れ

◆ 一次洗浄、繰り返し洗浄のどちらも指標洗剤より優れた洗浄力です。

殺菌効力試験

一般細菌・大腸菌・O-157・サルモネラ菌・黄色ブドウ球菌・レジオネラ菌

検体中の菌数測定結果

試験菌名	区分	菌数 (/ mL)			
		原液 ¹⁾	5分後	30分後	60分後
一般細菌数	検液	2.8×10 ⁹	0	0	0
	対象 ²⁾	2.8×10 ¹¹	—	—	—
大腸菌	検液	1.5×10 ⁸	0	0	0
	対象 ²⁾	1.5×10 ⁸	—	—	—
黄色ブドウ球菌	検液	1.4×10 ⁹	0	0	0
	対象 ²⁾	1.4×10 ¹¹	—	—	—
サルモネラ	検液	5.3×10 ⁸	0	0	0
	対象 ²⁾	5.3×10 ¹⁰	—	—	—

備考 1) 菌株接種時の菌数。
2) 滅菌ペプトン加生理食塩水中の菌数。

分析機関/財団法人 日本環境衛生センター

試験液に接種した試験菌の消長

試験菌	区分	生菌数 (/ mL)	
		開始時 ^{*1}	5分後 ^{*2}
大腸菌 (O157:H7)	試験液	2.5×10 ⁵	0
	対照	2.5×10 ⁵	2.5×10 ⁵

対照：精製水

*1 菌液接種直後の対照の菌数を開始時とした。

*2 保存温度：25℃

分析機関/財団法人 日本食品分析センター

検液中のレジオネラ属菌数測定結果

試験菌名	菌数 (CFU / 100mL)		
	原液	開始後(1分間以内)	5分後
レジオネラ属菌 (3群及び5群)	1.2×10 ⁶	1.0×10未満	1.0×10未満

備考 ※ 原液は、菌株接種時の菌数。
試料採取日(原液:平成9年3月17日、開始後(1分間以内):3月17日及び5分後:3月17日)
検査方法は、上水試験方法(厚生省生活衛生局水道環境部監修)に準拠して行った。

分析機関/財団法人 日本環境衛生センター

含有量試験

ノニルフェノール不検出

分析試験成績書 平成13年09月03日

依頼者 株式会社 フィールドサイエンス

検体名 ジョキニメイト

付記事項

日本食品分析センター

東京本部 〒161-8602 東京都渋谷区元代木1-23番1号
大阪支店 〒556-8601 大阪府吹田市豊津町
名古屋支店 〒466-8601 名古屋市中区大須1-11番13号
九州支店 〒812-8604 福岡市博多区下大路11-12号
多摩研究所 〒206-8623 東京都多摩市永田1丁目11番10号

平成13年09月10日当センターに提出された上記検体について分析試験した結果は次のとおりです。

分析試験結果

分析試験項目	結果	検出限界	注	分析方法
ノニルフェノール	検出せず	5ppm		液体HPLC-UV質量分析法

以上

※成績書その他に添付するときは当センターの承認を受けて下さい。
©日本食品分析センター

毒性試験結果

マウスを用いた急性経口毒性試験(限度) 20ml/Kg 以上

分析機関/財団法人 日本食品分析センター

体重変化

投与群	投与前	投与後	
		7日	14日
雄	試験群	28.3±1.0 (10)	33.9±1.8 (10)
	対照群	28.3±1.0 (10)	34.4±1.7 (10)
雌	試験群	24.9±1.3 (10)	28.6±1.4 (10)
	対照群	24.6±1.3 (10)	28.7±2.0 (10)

体重は平均値±標準偏差で表した(単位:g)。
括弧内に動物数を示した。

生分解度試験

28日後の生分解度 93.6%

分析機関/財団法人 日本食品分析センター

試験区分

培養試験区 : 検体+活性汚泥+基礎培養基 (試行数: 2)

非培養試験区 : 検体+イオン交換水+殺菌剤

吸着試験区 : 検体+活性汚泥+基礎培養基+殺菌剤

基準試験区 : アニリン+活性汚泥+基礎培養基

植種ブランク : 活性汚泥+基礎培養基

生分解度

検体及び基準物質(アニリン)の生分解度を表-1に示した。検体の28日後の生分解度は93.6%であった。また、基準物質の生分解度が7日後で40%以上となり、本試験の成立が確認された。

表-1 生分解度測定結果^{※1}(単位: %)

試験区分	7日後	14日後	21日後	28日後	平均値
検 体					
培養試験区 1	<10	14.4	66.8	94.7	
培養試験区 2	<10	10.4	60.3	92.5	93.6
非培養試験区					
非培養試験区	<10	<10	<10	<10	—
吸着試験区					
吸着試験区	<10	<10	<10	<10	—
アニリン					
基準試験区	>90 (99.5)	90 (98.4)	—	—	—

※1 括弧内の値は算出結果をそのまま示した。

PPHS-18-04